

教育学研究科教員業績一覧

(2010年4月1日～2011年3月31日)

基礎教育学コース

今井康雄(教授)

〈論文〉

今井康雄「私の考える教育学」『三田教育学研究』第18号, 2010年6月, 1-14頁。

今井康雄「『近代批判』のゆくえ」『教育思想史コメントール』(『近代教育フォーラム別冊』), 2010年10月, 175-184頁。

Imai, Yasuo: Responsibility and Judgement, for What? A Comment from a Benjaminian Perspective, in: *Finding Meaning, Cultures Across Borders: International Dialogues between Philosophy and Psychology* (Proceedings of the 4th International Symposium between the Graduate School of Education, Kyoto University (Japan), and the Institute of Education, University of London (UK)), 2011年3月, pp. 27-33.

今井康雄「『過去の克服』と教育——アドルノの場合」, 對馬達雄編著『ドイツ 過去の克服と人間形成』昭和堂, 2011年3月, 157-204頁。

〈その他〉

Imai, Yasuo: Editorial: The Value of Publishing in English, in: *Educational Studies in Japan: International Yearbook*, No. 5, 2010年12月, pp. 1-2.

金森修(教授)

〈著書〉

1) 『科学思想史』編著

勁草書房, 2010年7月30日, pp. 1-507 + i-vii, i-xxviii

2) 『ゴーレムの生命論』単著

平凡社, 平凡社新書, 2010年10月1日, pp. 1-224.

〈論文〉

1) “L’Evolution créatrice et le néo-lamarckisme”

Arnaud François ed., *L’Evolution créatrice de Bergson*, Paris: Vrin, Septembre 2010, pp. 111-123.

2) 「病と死の傍の賢治」

『死生学研究』, 「東アジアの死生学へII」, 東京大学大学院人文社会系研究科, 2010年11月30日, pp. 56-71. 討論, pp. 72-74.

〈エッセイ他〉

1) 「青春の一冊：安部公房『他人の顔』」

『東京大学新聞』2010年4月27日

2) 「聴こえない声を聴く」

『いのちの選択』, 岩波ブックレット No. 782, 岩波書店, 2010年5月7日, p. 66.

3) 「巻頭言：〈人為〉の人間学」

『研究室紀要』第36号, 2010年6月30日(東京大学大学院教育学研究科基礎教育学研究室), pp. 1-2.

4) 「著者に聞く：ゴーレムが「語る」人間」

『東京大学新聞』第2536号, 2011年1月1日

5) 「脳死・臓器移植行政反対のためのメッセージ」

「やめて！！ 家族同意だけの『脳死』臓器摘出！！」緊急市民集会用, メッセージ

2011年2月19日 大阪府商工会館7階第2講堂 冠木克彦・小松美彦他

〈書評〉

1) 「時間の意味変える『高速社会』」

『日本経済新聞』, 2010年6月13日

2) 「2010年上半期3冊」

『週刊読書人』第2848号, 2010年7月23日

3) 「2010年上半期読書アンケート」

『図書新聞』第2975号, 2010年7月24日

4) 「『生の被贈与性』という発想」

『週刊読書人』第2861号, 2010年10月22日

5) 「科学と文化の多層的相関探る」

『日本経済新聞』2010年10月31日

6) 「それぞれ一考に値する議論」

『週刊読書人』第2868号, 2010年12月10日

7) 「科学論内部の論争の背景探る」

『日本経済新聞』, 2010年12月19日

8) 「2010年下半期の3冊」

『図書新聞』第2995号, 2010年12月25日

9) 「2010 私の3冊」

『東京新聞』2010年12月26日

10) 「2010年読書アンケート」

『みずず』No. 590 2011年2月1日, p. 3.

11) 「古代ギリシアの『過去』問う」

『日本経済新聞』, 2011年3月6日

川本隆史(教授)

〈単行本〉

川本隆史(福間聡・神島裕子氏との共訳), ジョン・ローズ著『正義論〔改訂版〕』, 紀伊國屋書店, 2010年, 総ページ数844.

〈論文〉

川本隆史(単著), 「卓越と全幅への意志——塩野谷祐一の《経済哲学三部作》に寄せて」, 『U P』第40巻第1号, 東京大学出版会, 2010年, pp. 14-19.

川本隆史(単著), 「社会の正義／不正義を論じ合うために」, 『クレスコ』第11巻第3号, 大月書店, 2011年, pp. 38-39.

〈その他の業績〉

川本隆史(シンポジウム提題), 「共生」ということば——忘れられた系譜をたどる」, 第47回社会福祉セミナー(主催:財団法人鉄道弘済会), 2010年7月30日(有楽町朝日ホール).

川本隆史(基調講演), 「ケアリングと正義の教育——cura personalisとrenovatio mundiの統合を目指して」, 日本カトリック教育学会第34回大会, 2010年9月4日(清泉女子大学).

川本隆史(シンポジウム発題), 「共生の創出と福祉教育・ボランティア学習」, 日本福祉教育・ボランティア学習学会第16回大会, 2010年11月28日(前橋市総合福祉会館).

川本隆史(エッセイ), 「これから出る『正義論』の裏話をしよう」, 『新潮』第107巻第12号, 新潮社, 2010年12月, pp. 276-277.

川本隆史(基調講演), 「『正義論』の宇宙, 再訪——後ろから読んでみよう」, シンポジウム●ロールズ『正義論』と現代——自由・平等・友愛の社会へ(主催:東京大学消費生活協同組合書籍部), 2011年2月4日(東京大学医学部鉄門記念講堂).

小玉重夫(教授)

〈雑誌論文〉

小玉重夫(単著)「教育における労働の脱規範化へ向けて——アレントによるマルクスの読みかえに着目して——」教育哲学会『教育哲学研究』第101号, 2010.5, pp. 44-51

小玉重夫(単著)「物語論を公共性に開くために——主体の脱中心化へ向けて——」教育思想史学会『近

代教育フォーラム』第19号, 2010.9, pp. 31-36

小玉重夫(単著)「教育思想史におけるポストコロニアルの視点」教育思想史学会『近代教育フォーラム・別冊 教育思想史コメンタール』2010.10, pp. 153-161

小玉重夫(単著)「シティズンシップ教育と『新しい公共』」『教職研修』2010年12月号, 教育開発研究所, 2010.12, pp. 7-9

〈その他〉

小玉重夫(単著)「いま求められる政治教育と学校のあり方——シティズンシップ教育の観点から」全国民主主義教育研究会編『政権交代とシティズンシップ』同時代社, 2010.6., pp. 41-60

小玉重夫(単著)「『無能』な市民という可能性」本田由紀編『転換期の労働と〈能力〉』大月書店, 2010年11月, pp. 194-204

田中智志(教授)

〈著書〉

田中智志(共著), 田中智志編, 『学びを支える活動へ——存在論の深みから』, 東信堂, 平成22(2010)年4月10日刊行, 総頁数194.

〈雑誌論文〉

田中智志(単著), 「共存在概念の起源へ——聖パウロと「弱さの力」と「愛」, 『近代教育フォーラム』(教育思想史学会編), 第19号(pp. 1-14), 平成22(2010)年9月19日刊行.

田中智志(単著), 「教育目的の倫理——教育思想史の考え方」, 『近代教育フォーラム・別冊 教育思想史コメンタール』(教育思想史学会編), (pp. 33-44), 平成22(2010)年10月20日刊行.

田中智志(単著), 「利他から愛他へ」, 『科学』(岩波書店編), 第81巻第1号(pp. 66-67)平成23(2011)年1月1日刊行.

田中智志(単著), 「一人ひとりの子どもの学びのプロセスを見守り, 共有することが大切」, 『キッズレーダー』(日能研刊), 第36号(pp. 2-5), 平成23(2011)年2月1日刊行.

谷本宗生(助教)

〈著書〉

谷本宗生(共著), 「教育学部前史(文学部教育学科)」, 「教育学部の創設, 戦後の教育学部」, 「大学史史料室」, 『東京大学教育学部六十年史<1949~2009>』2011.3, pp. 9-29, pp. 216-218, 総頁

数380.

〈雑誌論文〉

谷本宗生 (単著), 「これからの調査研究の在り方を考える 高等中学校設置区域・第四区の場合」, 『1880年代教育史研究会ニューズレター』第30号, 2010.7, pp. 3-4.

谷本宗生 (単著), 「新制大学の学部前史をどう捉えていくか 関係する史・資料の扱いを含めて」, 『東京大学史料室ニュース』第45号, 2010.11, pp. 4-5.

谷本宗生 (単著), 「東京貸本社について」, 『1880年代教育史研究会ニューズレター』第32号, 2011.1, pp. 5-6.

〈その他〉

谷本宗生 (文献紹介), 「長谷川時雨『旧聞日本橋』(1935年)の一節 明治初めの動向」, 『1880年代教育史研究会ニューズレター』第29号, 2010.4, pp. 11-12.

谷本宗生 (史料紹介), 「『官庁往復』(1899年)の目次(抄) 帝国大学体制を考える手がかり」, 『1880年代教育史研究会ニューズレター』第31号, 2010.10, pp. 8-10.

谷本宗生 (史料紹介), 「私立東京英語学校生・上田英吉の『遊学日記』(その2〔完〕)」, 『1880年代教育史研究年報』第2号, 2010.10, pp. 107-136.

比較教育社会学コース

白石 さ や (教授)

〈著書・報告書〉

白石さや (共著), 日本国際フォーラム叢書『東アジア共同体白書2010』, たちばな出版, 2010.9.30, 総ページ数655, (白石さやの分担部分「第一部 第2章 第11節 文化交流」pp. 518-553).

白石さや (共同執筆), Report of the Network of East Asian Think-Tanks Working Group on “Enhancement of Cultural Exchange in East Asia: Education,” (2010年NEAT文化交流ワーキンググループ報告), June 20, 2010, Seoul, Korea.

白石さや (共同執筆: 座長 平野健一郎), 『文化交流研究委員会 報告書: 文化交流についての研究者からの提言』国際交流基金ウェブサイト 2011.4月~, <http://www.jpj.go.jp/j/about/president/conversation/index.html>

〈雑誌論文〉

白石さや (日本国際文化学会第9回全国大会公開シ

ンポジウム総括), 「地域から<国境>を穿つ: 越境する文化: 総括」『特集: 北海道 越境する自然/分断される文化: グローバル化時代における市民的課題』日本国際文化学会『インターカルチュラル9』, 2-6ページ, 2011.3.31

〈招待講演・シンポジウム〉

Shiraishi, Saya, *Globalizing Japanese Manga Culture*, FPT University, Hanoi, Viet Nam. 2011.3.18.

Shiraishi, Saya, “Manga Culture: Globalizing Japan,” 国際日本文化研究センター・インドネシア大学共催国際シンポジウム, *Understanding Current Issues in Japan*, University of Indonesia, Jakarta, 2010.10.6

Shiraishi, Saya, “Educational Exchange makes Cultural Identity of East Asia – A Japanese Perspective,” NEAT (The Network of East Asian Think-tanks) Working Group 2010 Meeting on “The Enhancement of Cultural Exchange: Education,” Korean Institute of Southeast Asian Studies, 18-20 June 2010, Seoul Garden Hotel, Seoul, Korea.

〈その他〉

東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター主催: 国際シンポジウム『人と人との間のバリアフリー』企画/挨拶, 於東京大学福武ラーニングシアター, 2011.2.19

外務省国際漫画賞実行委員・第三回国際漫画賞授賞式2010.12.4

「教育における<力>の概念の学際的研究グループ主催: エヴァ・キティさんを囲むラウンドテーブル <『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』をめぐる>におけるコメンテーター, 2010.11.12

国際交流基金記者発表「2009年度海外日本語教育機関調査結果に関する有識者コメント: インドネシアについて」, 2010.7.29

「ちばてつや氏教育講演会」企画・司会, 2010.6.22

比較教育社会学コース

恒 吉 僚 子 (教授)

〈著書〉

Ryoko Tsuneyoshi (edited) *Minorities and Education in Multicultural Japan: An Interactive Perspective*, (coedited by Kaori Okano, and Sarane Boocock). New York: Routledge, 2010.総頁数272.

〈雑誌論文〉

Ryoko Tsuneyoshi (単著) “Cultural Diversification and Japanese Education: Social Constructions of the

New Diversity,” in *The International Encyclopaedia of Education*, vol.1, 3rd Edition, edited by Penelope Peterson, Eva Baker, and Barry McGraw, Oxford: Elsevier, 2010, pp. 787-792.

Ryoko Tsuneyoshi (単著) “The ‘Internationalization’ of Japanese Education and the Newcomers: Uncovering the Paradoxes.” *Reimagining Japanese Education: Borders, Transfers, Circulations, and the Comparative*, Oxford: Symposium Books, 2011, pp. 107-126.

恒吉僚子 (単著) 「アメリカの子育てに学ぶ」『教育と医学』6号, 「教育と医学の会」編, 慶応義塾大学出版会, 2010, pp. 4-11.

恒吉僚子 (単著) 「PISAをめぐる諸外国の社会的文脈と日本への示唆」(特集I PISA型学力を問う), 『教育』6号, 2011, pp. 13-20.

本田由紀 (教授)

〈著書〉

本田由紀 (編著), 『労働再審① 転換期の労働と〈能力〉』, 大月書店, 2010, 総頁数285.

本田由紀 (単著), 『若者の気分 学校の「空気」』, 岩波書店, 2011, 総頁数137.

〈その他の業績〉

本田由紀, 「若者にとって働くことはいかなる意味をもっているのか」, 小谷敏・土井隆義・芳賀学・浅野智彦 (編), 『〈若者の現在〉労働』, 日本図書センター, 2010, pp. 25-51.

本田由紀, 「「シューカツ」という理不尽」, 『UP』No. 454, 東京大学出版会, 2010, pp. 1-6.

本田由紀, 「大学でキャリア教育が可能なのか」, 『IDE現代の高等教育』No. 521, 2010, pp. 36-41.

本田由紀, 「学校教育の職業的意義をめぐる課題」, 『都市問題』vol. 101, 2010, pp. 64-72.

本田由紀, 「若者の「働くこと」に関する意識」, 『POSSE』vol. 9, 2010, pp. 51-58.

本田由紀・常見陽平, 「新卒一括採用そのものの廃止か? 「自由化」による是正か? 抜本的な改革の構想と現場のリアリズムの対論は、どこへ向かうのか「新卒採用廃止」は、若者を救えるのか?」, 『POSSE』vol.10, 2011, pp.19-35.

本田由紀, 「公立中学生と保護者の生活と意識に関する調査」, 『中央調査報』No. 633, pp. 5595-5599.

本田由紀, 「普通科高校における〈教育の職業的意義〉の在り方」, 『月刊進路指導』84 (1), 2011,

pp. 23-30.

本田由紀・本橋哲也, 「エンパワーのための教育—「柔らかな鎧」を身につける」, 本橋哲也編『格闘する思想』平凡社新書, 2010, pp. 137-163.

本田由紀, 「解説, というか反論」古市憲寿『希望難民ご一行様—ピースボートと「承認の共同体」幻想』光文社新書, 2010, pp. 292-306.

本田由紀, 「中学生の社会意識の規定要因」, 『神奈川県公立中学校の生徒と保護者に関する調査報告書』, Benesse教育研究開発センター研究所報 vol. 60, 2011, pp. 20-28.

Yuki Honda, Maki Hiratsuka, Akihiko Higuchi, Masahiro Kidoguchi, Takumi Arikai, “The Differentiation of Trajectories from School to Work in Present-Day Japan,” 『若者の教育とキャリア形成に関する調査』2009年第3回調査結果報告書』日本教育学会特別課題研究「若者の教育とキャリア形成に関する研究会」研究代表者 乾彰夫, 2011, pp. 130-141.

筒井美紀・本田由紀, 「自治体における若者支援施策の現状と課題」『若者支援・就労支援のメゾ分析—持続的発展の追跡の研究に向けて—』平成20-22年度・日本学術振興会科学研究費補助金基礎研究(C)「市場化・分権化時代の就業支援政策の有意義性と公共性に関する教育・労働社会学的研究」(研究代表者: 筒井美紀, 課題番号20530786), 2011, pp. 55-61.

橋本 鉦 市 (准教授)

〈編著書〉

橋本鉦市 (阿曾沼明裕との共同責任編集) 『リーディングス日本の高等教育 (全8巻)』玉川大学出版部, 2010年9月~2011年1月。

橋本鉦市 (編著) 『大学生—キャンパスの生態史』(「リーディングス 日本の高等教育」第3巻) 玉川大学出版部, 2010年9月, 全371頁。

〈雑誌論文〉

橋本鉦市「戦略プラン『MS-15』による教職協働とSD」『カレッジマネジメント』166号, 18-21頁, 2011年1-2月号。

橋本鉦市「専門職養成の「質」保証システム—医師と法曹の教育課程を中心に—」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第50巻, 2011年3月, 45-65頁。

橋本鉦市「東北福祉大学—「福祉」をコアに社会と

学生のニーズに応える』『カレッジマネジメント』162号, 30-33頁, 2010年5-6月号。

〈報告書など〉

橋本鉦市編『日本的な専門職コンピテンシー抽出と質保証システム構築のための横断的分析』(2009～2010年度科学研究費補助金・挑戦的萌芽研究中間報告書), 全193頁, 2011年3月

橋本鉦市「書評 大淀昇一『近代日本の工業立国化と国民形成－技術者運動における工業教育問題の展開』(すずさわ書店)』『教育社会学研究』第86集, 2010年9月, 231-232頁。

〈国内会議記録〉

橋本鉦市「戦後の高等教育政策をふりかえる－自民党的政策形成の変容－」シンポジウム『旧制高等学校記念館第15回夏期教育セミナー』(招待講演)松本市旧制高校記念館, 2010年8月28日

中村高康(准教授)

〈著書〉

中村高康・藤原翔, 「ロジスティック回帰分析」川端亮編『データアーカイブSRDQで学ぶ社会調査の計量分析』ミネルヴァ書房, 2010, 95-108頁。

中村高康(編集), 『大学への進学 選抜と接続(リーディングス日本の高等教育①)』, 玉川大学出版部, 2010, 総頁数346。

中村高康(編著), 『進路選択の過程と構造 高校入学から卒業までの量的・質的アプローチ』, ミネルヴァ書房, 2010, 総頁数305。

中村高康(単著)『大衆化とメリトクラシー 教育選抜をめぐる試験と推薦のパラドクス』東京大学出版会, 2011, 総頁数238。

〈雑誌論文〉

Nakamura, Takayasu. 2011. "High School Equalization Policies and Social Stratification: Consequences of Policies to Alleviate Disparity between High Schools in Japan and South Korea", in 佐藤嘉倫研究代表『現代日本の階層状況の解明－ミクロ・マクロ連結からのアプローチ 第二分冊 教育・ジェンダー・結婚』(科学研究費報告書), pp. 75-88.

小山治(特任助教)

〈著書〉

東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse教育研究開発センター(編著), 『神奈川県公立中学校の生徒と保護者に関する調査報告書』, 小

山治, 「『閉じた努力』の再考—経済階層別にみた家庭教育・学校教育・『開かれた努力』の影響—」, ベネッセコーポレーション, 2011, pp. 92-101.

〈雑誌論文〉

小山治(単著), 「新規大卒労働市場における大学教育の就職レリバンス—学習理論に着目した新しい分析モデルの提出—」, 『大学教育学会誌』第32巻第2号, 大学教育学会, 2010, pp. 95-103.

〈その他の業績〉

小山治(学会発表), 「採用基準という虚構—大卒就職に着目して—」, 日本教育社会学会第62回大会, 関西大学, 2010.

小山治(講演), 「なぜ企業の採用基準は不明確になるのか—企業と学生の相互作用に着目して—」『現代若者論』, 一橋大学, 2010.

小山治(講演), 「博物館の評価活動を行うために必要な社会調査の基礎」, 日本ミュージアム・マネジメント学会実践部門研究部会第1回研究会, 科学技術館, 2011.

小山治(報告書), 「祭典充実度は祭典効果を高めるのか—興味喚起度, 知識獲得度, 満足度に着目して—」, 財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館企画広報室『平成21年度 科学技術館科学技術理解増進活動基礎調査 報告書—青少年のための科学の祭典—サイエンス友の会—』, 財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館企画広報室, 2011, pp. 99-109.

〈社会活動〉

財団法人日本科学技術振興財団「『青少年のための科学の祭典』全国ネットワーク事業評価委員会」委員(2009年9月～2012年3月)。

生涯学習基盤経営コース

影浦 映(教授)

〈著書〉

影浦映 言語処理学会編『言語処理学事典』東京: 共立出版, p. 350-353, 2010. (「用語抽出」の項)

影浦映 言語処理学会編『言語処理学事典』東京: 共立出版, p. 94-95, 2010. (「ターミノロジー」の項)

影浦映 計量国語学会編『計量国語学事典』東京: 朝倉書店, p. 118-122, 2010. (「語彙量の推定」の項)

影浦映 計量国語学会編『計量国語学事典』東京: 朝倉書店, p. 112-115, 2010. (「利用率の分布」

の項)

〈雑誌論文 (査読付)〉

Kyo Kageura. "Analysing the status of borrowed morphemes in terminological structure: the case of Japanese terminologies," *Terminology*. 16(2), p. 181-216, 2010.

Emanuel Morin, Beatrice Daille, Koichi Takeuchi and Kyo Kageura. "Brains, not brawn: the use of "smart" comparable corpora in bilingual terminology mining," *ACM Transactions on Speech and Language Processing*. 7(1), Article 1 (23 pages), 2010.

Bin Umino, Kyo Kageura and Shinichi Toda. "A sixty year history and analysis of the Japanese publishing industry: A statistical analysis of circulation," *Publishing Research Quarterly*. 26(4), p. 272-286, 2010.

〈学会発表 (査読付)〉

Masao Utiyama, Takeshi Abekawa, Eiichiro Sumita, Kyo Kageura. "Helping volunteer translators, fostering language resources," Coling 2010: 2nd Workshop on the People's Web Meets NLP: Collaboratively Constructed Semantics Resources. 2010.

Mohammad Daoud, Kyo Kageura, Christian Boitet, Asanobu Kitamoto and Daoud Daoud. "Passive and active contribution to multilingual lexical resources through online cultural activities," The 6th IEEE International Conference on Natural Language Processing and Knowledge Engineering. 2010.

Mohammad Daoud, Kyo Kageura, Christian Boitet, Asanobu Kitamoto and Mathieu Mangeot. "Multilingual lexical network from the archives of the Digital Silk Road," Coling 2010: OntoLex 2010, 6th Workshop on Ontologies and Lexical Resources. 2010.

Takeshi Abekawa, Masao Utiyama, Eiichiro Sumita and Kyo Kageura. "Management and use of terminological resources for distributed users in the translation hosting site Minna no Hon'yaku," Proceedings of the 14th Euralex International Congress. 2010.

Takafumi Suzuki, Shuntaro Kawamura, Fuyuki Yoshikane, Kyo Kageura, Akiko Aizawa. "Co-occurrence-based indicators for investigating authors' styles," Proceedings of the 10th International Conference on Statistical Analysis of Textual Data. 2010.

Takeshi Abekawa, Masao Utiyama, Eiichiro Sumita and

Kyo Kageura. "Community-based construction of draft and final translation corpus through a translation hosting site Minna no Hon'yaku (MNH)," The Seventh International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC 2010). 2010.

〈雑誌論文 (査読無)〉

影浦峽・阿辺川武・内山将夫. 「みんなの翻訳」は何を指すか」AAMT Journal. 48号, p. 8-10, 2010.

〈学会発表 (査読無)〉

影浦峽・Martin Thomas・Bogdan Babich・阿辺川武・内山将夫・隅田英一郎・Anthony Hartley. 「翻訳教育向け「みんなの翻訳」」言語処理学会第17回年次大会論文集. 2011.

影浦峽・阿辺川武. 「翻訳者向けレファレンス・ツールにおける「包括性」概念をめぐる」言語処理学会第17回年次大会論文集. 2011.

内山将夫・阿辺川武・隅田英一郎・影浦峽. 「みんなの翻訳第三報」言語処理学会第17回年次大会論文集. 2011.

浅石卓真・影浦峽. 「専門語彙を手がかりとした知識構成の展開—生命科学分野を例に—」言語処理学会第17回年次大会論文集. 2011.

〈新聞発表〉

英博物館展示情報を翻訳 神戸市外大とリーズ大共同プロ始動 日刊工業新聞. 2010年6月4日.

共同で翻訳プロジェクト NICT, 東大など4機関が連携 電経新聞. 2010年5月31日.

〈招待講演・パネル〉

影浦峽「多言語情報流通環境と「翻訳」の場」関西トランスレーション・スタディーズ研究会 "Translation and Community," 2010年10月2日.

Kyo Kageura. "Being Theoretical is Being Practical: Multiword Units and Terminological Structure Revitalised," Multiword Expressions: From Theory to Applications (MWE 2010): Workshop at COLING 2010, August 28, 2010, Beijing, China. Invited Speaker.

Kyo Kageura. "From BUCC to BUCA: A translator/library scientist's perspective," Panel Session "A Roadmap for Comparable Corpora" at 3rd Workshop on Building and Using Comparable Corpora, May 22, 2010, Malta. Invited Panelist.

影浦峽. 「みんなの翻訳」電子情報技術産業協会. 2010年4月26日.

Kyo Kageura, Masao Utiyama, Takeshi Abekawa, Eiichiro, Sumita. "Minna no Hon'yaku: Hosting, archiving and promoting (h&m) translations," TAUS Executive Forum Tokyo, April 15, 2010.

〈受賞〉

アジア太平洋機械翻訳協会 (AAMT) 長尾賞, 2010.

根本 彰 (教授)

〈著書〉

根本彰 (共著) 『図書館情報学検定試験問題集』 (上田修一, 小田光宏, 永田治樹と) 日本図書館協会, 2010. 163p.

根本彰 (編著) 『情報専門職養成をめざした図書館情報学教育の再編成 (研究成果報告書)』 (研究代表者 根本彰) 根本彰, 2010. (科学研究費補助金 (基盤研究A) 研究成果報告書; 平成18年~21年度). 330p

日本図書館情報学会図書館情報学検定試験実施検討委員会編 『図書館情報学検定試験準備試験報告書』 2011年3月6日, 日本図書館情報学会 86p.) (分担執筆)

〈雑誌論文〉

根本彰 (単著) 「書誌コントロール再考」, 『情報の科学と技術』 Vol. 60, No. 9, 2010. p. 358-364.

根本彰 (単著) 「遅ればせながらの『岡田健蔵伝』拝読」, 『北の文庫』 第51号 2010, pp. 39-42.

根本彰 (単著) 「21世紀の学校図書館の理論は可能か」, 『学校図書館』 723号, 2011年1月, pp. 20-22, 41.

根本彰 (単著), 「図書館情報学教育と司書・司書教諭養成の課題」, 『明治大学図書館情報学研究会紀要』 No. 1, 2010年3月, pp. 2-12.

根本彰 (単著) 「図書館を使った調べる学習コンクール: その効果について総合的に評価する」, 『あうる』 No. 99, 2011年, pp. 36-41.

根本彰 (単著) 「ムンダネウム (書評)」, 『日本図書館情報学会誌』 vol. 56, no. 1, 2010.3. pp. 34-36.

根本彰 (単著) 「書評: 奥泉和久編著『近代日本公共図書館年表: 1867~2005』」, 『日本図書館文化史研究会ニューズレター』 No. 113, 2010. pp. 12-13.

根本彰 (単著) 「『図書館制度・経営論』について」, 『日本図書館協会図書館学教育部会会報』 第92号, 2010年8月. pp. 10-14.

塩見昇・安藤友張・今井福司・根本彰 (共著) 「戦

後初期の日本における学校図書館改革—深川恒喜インタビュー記録』 『生涯学習基盤経営研究』 第35号 2010年度 p. 67-94.

根本彰 (単著) 「図書館は情報発信・提供を」 東京大学新聞 2543号 2011年3月23日. p. 5.

〈学会発表〉

河村俊太郎, 木村優, 尾城孝一, 金藤伴成, 星野雅英, 山本和雄, 根本彰 「研究型総合大学における雑誌・図書・図書館利用調査」 第58回に本図書館情報学会研究大会 2010年10月9日 (札幌市藤女子大学)

根本彰, 浅石卓真, 井田浩之, 金昭英 「図書館を使った調べる学習コンクール: その効果について総合的に評価する」 図書館総合展フォーラム 2010年11月24日

牧野 篤 (教授)

〈著書 (単著)〉

『認められたい欲望と過剰な自分語り—そして居合わせた他者・過去とともにある私へ』, 東京大学出版会, pp. 307, 2011年2月

〈論文 (単著・日本語)〉

「知の分配システムから生成プラットフォームへ—「教育」概念の再検討, そのイメージ/覚え書き風—to」, 日本教育学会 『教育学研究』 第77巻第4号, pp. 27-40, 2010年12月

「学びが明るい人生と豊かなコミュニティをつくる」, 東京大学高齢社会総合研究機構 『2030年超高齢未来』 東洋経済新報社, pp. 121-130, 2010年12月

「過疎化・高齢化対応コミュニティの構想—3つの試みより—」, 東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室 『学習基盤社会研究・調査モノグラフ1』, pp. 1-63, 2010年5月

〈論文 (共著・日本語)〉

「開かれた自立性の構築と公民館の役割—飯田市を事例として—」, 東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室 『学習基盤社会研究・調査モノグラフ2』, pp. 1-124 (荻野亮吾・佐藤智子・中村由香・歌川光一・佐藤晃子・王美璇・汪乃佳と共著, 担当部分序章第1節~第3節pp. 3-7, 終章pp. 82-101), 2011年1月

〈論文 (単著・中国語)〉

「終身学習和知識分配模式的転変以及地方政府の重組—以日本長野県飯田市公民館の重組為例—」,

台北市政府教育局『台北市建構學習型城市國際學術研討會2010』, pp. 57-86, 2010年12月

「『無償贈礼』的終身學習與高齡者教育」, 台北縣政府教育局『迎接新北市2010亞洲高齡教育學術研討暨專案研究成果發表會』, pp. 101-124, 2010年12月

「日本社会結構的變化與教育改革的方方向－從終身學習的角度看學校教育改革的方方向－」, 『基礎教育』2010年第4期(総第76期), pp. 3-21 + p. 39, 2010年4月

〈報告書(編集)〉

『地域を感じ, 人を知る－東京大学教育学部社会教育演習Ⅱ 2010年度飯田市調査実習報告書－』, 東京大学教育学部社会教育学研究室, 2011年2月
『開かれた自立性の構築と公民館の役割－飯田市を事例として－』, 東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室『学習基盤社会研究・調査モノグラフ2』(荻野亮吾と共編), 2011年1月

〈その他(エッセイ・書評など・日本語)〉

「特別課題研究Ⅲ 東アジアの教育－その歴史と現在－」, 日本教育学会『教育学研究』第78巻第1号, pp. 40-54, 2011年3月

「生きるための大学」, 首都大学東京FD委員会『クロスロード』第10号, pp. 38-48, 2011年3月

「日本と中国の教育改革をめぐる対話－「質」の追求に向けて－」, 東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻東アジア学校改革研究プロジェクト『科学研究費基盤A「東アジア地域における学校改革研究の拠点形成」最終報告書(平成20年～平成22年)』, p. 83, 2011年3月

「人に魅せられ, 地域にひたる－「はじめに」に代えて－」, 東京大学教育学部社会教育学研究室『地域を感じ, 人を知る－東京大学教育学部社会教育演習Ⅱ 2010年度飯田市調査実習報告書－』, pp. i-iii, 2011年2月

「三輪建二『おとなの学びを育む』」, 日本教育学会『教育学研究』第77巻第2号, pp. 85-86, 2010年6月

〈その他(エッセイ・書評など・中国語)〉

「終身教育体系の整体再構築－中日学者三人談」, 『開放教育研究』2010年第16巻5期, pp. 4-14, 2010年10月

〈国際シンポジウム発表・基調講演など〉

「終身学習和知識分配模式的轉變以及地方政府的重

組－学習基盤社会的構想－」, 台北市政府教育局・台北市立図書館・教育部「台北市建構學習型都市國際學術研討會2010」, 台北市立図書館國際會議庁, 2010年12月20日

「『無償贈礼』的終身學習與高齡者教育」, 台北縣政府教育局・教育部「台北縣2009中日高齡教育國際學術研討會」, 台北縣政府大礼堂, 2010年12月17日

Japan's Social Change and Lifelong Learning, Vietnam Forum on Lifelong Learning: Building a Learning Society, ASEM Education and Research Hub for Lifelong Learning Internal Meetings, Ministry of Education and Training of Vietnam, Hanoi, Vietnam, December 6-8, 2010

「全球化和知識分配模式的轉變及終身教育的任務」, 華東師範大学生涯教育研究センター設立記念シンポジウム(華東師範大学終身教育研究中心創辦高端學術研討會), 華東師範大学, 2010年6月15日

李 正 連(准教授)

〈雜誌論文〉

「韓国における平生教育法の改正と自治体の取り組み」日本社会教育学会『日本の社会教育』第54集, 東洋館出版社, 2010.9, pp. 190-203.

「植民地朝鮮における実業補習教育に関する一考察－実業補習学校の設置及び運営を中心に－」名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属生涯学習・キャリア教育研究センター『生涯学習・キャリア教育研究』第7号, 2011.3, pp. 11-24.

〈翻訳〉

『한국 '사회교육' 의 기원과 전개』(李正連著), 학지사, 2010, 総頁数332.

『일본의 사회교육・평생학습~풀뿌리 주민 자치와 문화창조를 향하여~』(小林文人・伊藤長和・梁炳賛編著), 학지사, 2010, pp. 13-164, pp. 195-222, pp. 439-521.

「日本の社会教育実践に学ぶ」(梁炳賛著)月刊『社会教育』No. 659, 国土社, 2010.9, pp. 42-43.

「共に生きる共同体を夢見る人々－平生教育実践協議会の設立と活動を中心に－」(李揆仙著)東京・沖縄・東アジア社会教育研究会(TOAFAC)『東アジア社会教育研究』第15号, 2010.9, pp. 133-149.

「平生学習都市の発展のためのネットワーク戦略～ソウル市冠岳区の事例を中心に～」(姜大仲著),

日中韓生涯学習国際フォーラム『学習型社会建設』（上海外国語大学），2010年11月。

〈報告書〉

「韓国における地域教育共同体運動と社会教育—大田地域における「草の根の人々」とマウル子ども図書館を中心に—」『社会教育・生涯学習の再編とソーシャル・キャピタルに関する実証的研究』第3集（平成20年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書・その3（研究代表者：松田武雄），2011.3，pp. 51-60.

〈その他〉

「日本社会教育の支柱，社会教育研究集会の第50回を迎えて」『平生教育振興院ニューズレター』第17号，2010.7（http://club.nile.or.kr/bbs/board.php?bo_table=trend&wr_id=32）。（韓国語）

「文解基礎教育法（案）・解題」東京・沖縄・東アジア社会教育研究会（TOAFAEC）『東アジア社会教育研究』第15号，2010.9，pp. 126-132.

「東アジア大都市社会教育・生涯学習の展開と可能性（座談会）」東京・沖縄・東アジア社会教育研究会（TOAFAEC）『東アジア社会教育研究』，2010.9，p. 92，p. 105.

「編集後記」小林文人・伊藤長和・梁炳賛編著『일본의 사회교육·평생학습~풀뿌리 주민 자치와 문화창조를 향하여~日本の社会教育・生涯学習~（草の根の住民自治と文化創造に向けて~）』，학지사，2010，pp. 435-437.（韓国語）

「おわりに」名古屋大学教育学部社会教育学研究室『松本市調査実習報告書2—2010年度社会教育学演習「松本市研修」報告』，2010.12，pp. 67-68.

〈学会発表及び講演〉

「日本留学と歴史認識の変容—ライフヒストリーを中心に—」日本教育学会第69回大会特別課題研究，2010年8月21日，広島大学。

「韓国少子高齢化の進展と高齢者教育政策」臺北縣政府教育局主催・迎接新北市2010亞洲高齢教育學術研討暨專案研究成果發表會，2010年12月17日，台湾・臺北縣政府。

「韓国平生教育的動向政策と課題」臺北市政府教育局主催・臺北市建構學習型城市國際學術研討會，2010年12月21日，台湾・臺北市立図書館。

新藤浩伸（講師）

〈著書〉

新藤浩伸（単著），『大正期～占領期における公会堂

の設立経緯，事業内容および機能に関する研究』東京大学大学院教育学研究科課程博士学位論文，2010，総頁数357.

〈雑誌論文〉

新藤浩伸（単著），「近代日本における音楽演奏会場の位置づけに関する考察：日比谷公会堂を中心に」，『研究紀要』第34号，東京音楽大学，2010，pp. 49-71.

〈学会発表等〉

新藤浩伸「日比谷公会堂の催事にみる『教化動員』のメカニズムに関する考察」，日本社会教育学会第57回研究大会自由研究発表，2010年9月19日，神戸大学

〈その他の業績〉

新藤浩伸「地域でつなぐ文化の記憶—共楽座再生の試み」社会教育推進全国協議会編『月刊社会教育』国土社，2011年1月，pp. 54-55.

大学経営・政策コース

山本 清（教授）

〈英文論文〉

Utility of Accrual Information in a Dual Financial Management System 共著with M.Kobayashi 2010.7 28th International Congress of Administrative Sciences (Bali)*

Educational and Public Accountability of Higher Education Institutions in Case of National Universities in Japan 単著 2010.10. International Conference on Educational Policy and Leadership (Taipei, Tamkang University)

Performance-Oriented Budgeting in Public Universities: The Case of a National University in Japan 単著 2010.12. The Journal of Finance and Management in Colleges and Universities*, No. 7, pp. 43-60.

〈和文論文〉

「公的部門の会計改革」単著 2010.4. 『企業会計』 Vol. 62, No. 4, pp. 4-10.

「独立行政法人制度の見直しの課題」単著 2010.7. 『会計と監査』第61巻第8号，pp. 22-27.

「大学職員的能力開発」単著 2010.8/9. 『IDE』 No. 523

「学部長アンケートの大学特性，学部別の分析」単著 2010・9 『国立大学法人化後の経営・財務の実態に関する研究』国立大学財務・経営センター研究報告第12号

「外部資金と大学経営—法人化の影響—」 単著 同上 同上

「分権時代における財政監督の役割—会計検査を中心に考える」 単著 2011.1. 『都市問題』第102巻第1号 pp. 94-100.

「アンケート調査からみた地方財政のガバナンスとシステム改革の課題」 単著 2011.3. 『地方財政のガバナンスとシステム改革に関する総合的研究』(科学研究費補助金(研究代表者宮川公男)最終報告書第5章)

「公会計制度改革と政府経営(上)」 単著 2011.3. 『会計と監査』第62巻第3号 pp. 16-21.

〈学会発表〉

「国立大学法人の法人化」 2010.5.30. 日本高等教育学会第13回大会(関西国際大学)

「公的部門の意思決定における会計情報の利用」 2010.9.9. 日本会計研究学会第69回大会(東洋大学)

〈講演〉

「公会計制度の今後のあるべき姿」 2010.11.11 東京都・大阪府主催 公会計制度改革シンポジウム 基調講演

「自治体の財政と経営」 2010.6.28. 城西大学大学院特別講義

「自治体経営の革新と課題：NPMとガバナンス」 2010.10.13 静岡大学・静岡県立大学・静岡産業大学三大学連携事業特別講義

「自治体経営と産学連携」 2010.11.8. 東大産学連携本部

「公会計・公監査改革の最前線」 2010.12.22. 青山学院大学大学院会計プロフェッショナル研究科

小方直幸(准教授)

〈著書〉

小方直幸(編集)『大学から社会へ』(リーディングス日本の高等教育 第4巻) 玉川大学出版部, 全367頁.

〈雑誌論文〉

小方直幸2010「大学教員の学生観の変容」『IDE現代の高等教育』, No.519, IDE大学協会, pp. 51-56.

小方直幸2010「人事担当者の大学教育観」『IDE現代の高等教育』, No.521, IDE大学協会, pp. 50-55.

小方直幸2010「卒業生調査を用いた大学の教育成果の評価」『大学評価研究』, 第9号, pp. 29-39.

小方直幸2011「専門学校—職業・実践ベースの教育

の実態」『カレッジマネジメント』No.167, リクルート, pp. 5-13.

小方直幸2011「教育における教員の共同—共同教育の提唱—」『大学経営政策研究』, 第1号, 東京大学大学院教育学研究科, pp. 131-144.

〈その他の業績〉

Yusuke Hasegawa, Ogata Naoyuki, 2010, “Convergence and Divergence of Teaching and Research Activities in the Japanese Academic Profession” in *The Changing Academic Profession in International and quantitative Perspectives: A Focus on Teaching and Research Activities*, Research Institute for Higher Education, Hiroshima University, pp. 113-134.

小方直幸2011「東広島市の発展と広島大学の統合移転」『国立大学の機能に関する実証的分析—地方国立大学に注目して—』戦略的研究プロジェクトシリーズⅢ, 広島大学高等教育研究開発センター, pp. 303-317.

小方直幸2011「学生調査を用いた教育改善に向けた理論的フレームワークの構築」『教育・学習過程の検証と大学教育改革』高等教育ライブラリ1, 東北大学出版会, pp. 47-62.

小方直幸2011「大学におけるキャリア教育—キャリア教育の終焉と職業専門教育の復権—」『教育学術充実協議会報告書』(第41回), 日本私立大学協会, pp. 47-61.

両角亜希子(講師)

〈雑誌論文〉

両角亜希子(単著)「工学教育の実質化を目指して、進化を続ける組織文化(事例①：芝浦工業大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2010年5月 162号 26-29頁

両角亜希子(単著)「時代を見越した新学部設置で志願者増へ(事例③：相山女学園大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2010年5月 162号 34-37頁

両角亜希子(単著)「大学生の経済環境と学習・生活」IDE大学協会『IDE現代の高等教育』No. 520(特集：学費と奨学金)2010年5月号, 41-47頁

両角亜希子(単著)「4年間一貫教育の充実化を目指したキャンパスの再配置(事例①：青山学院大学)」リクルート『カレッジマネジメント』2010年7月 163号 16-19頁

両角亜希子(単著)「新名古屋キャンパス移転を契

- 機に第二の創学・建学へ（事例②：愛知大学）」リクルート『カレッジマネジメント』2010年7月163号 20-23頁
- 両角亜希子（単著）「生活を総合的に捉え、1学部体制に再編（事例③：東京家政学院大学）」リクルート『カレッジマネジメント』2010年7月163号 24-27頁
- 両角亜希子（単著）「職員の将来像と育成の課題：職員調査から」IDE大学協会『IDE現代の高等教育』No. 523（特集：プロとしての大学職員）2010年8-9月号、45-49頁
- 両角亜希子（単著）「農学の潜在力を拡大させ、高校生に直接伝える戦略（事例①：東京農業大学）」リクルート『カレッジマネジメント』2010年9月164号、38-41頁
- 両角亜希子（単著）「国際性の強化をめざして、教育研究の充実をはかる（事例③：南山大学）」リクルート『カレッジマネジメント』2010年9月164号、46-49頁
- 両角亜希子（単著）「私立大学における戦略的経営－財務調査からみる現状と課題」私学高等教育研究所 研究叢書2『財務、職員調査から見た私大経営改革』2010年10月、5-24頁
- 両角亜希子（単著）「教職協働でキャリア教育を再構築（事例：松山大学）」リクルート『カレッジマネジメント』2010年11月、165号、28-31頁
- 両角亜希子（単著）「課題共有が学生獲得のカギ－私高研・財務運営調査の分析から」『教育学術新聞 アルカディア学報』2010年11月17日、2頁
- 両角亜希子（単著）「私立大学の経営戦略①：中長期計画の効果」社団法人私学経営研究会『私学経営』2011年1月 No. 431 45-53頁
- 両角亜希子（単著）「地域の大学間連携による職員養成－四国地区SPOD-SDプログラム」リクルート『カレッジマネジメント』2011年1月 166号 26-29頁
- 両角亜希子（単著）「私立大学の経営戦略②：人件費比率からみた私学経営」社団法人私学経営研究会『私学経営』2011年2月 No. 432 52-57頁
- 両角亜希子（単著）「私立大学の経営戦略③：アメリカの大学の戦略的計画」社団法人私学経営研究会『私学経営』2011年3月 No. 433 59-69頁
- 両角亜希子（単著）「私立大学のマネジメント改革が経営改善に与える影響」東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース『大学経営政策研究』

2011年3月 第1号、21-38頁

〈口頭発表〉

- 両角亜希子（講演）「学校法人制度に関する概要」私学高等教育研究所 第1回学校法人プロジェクト、2010年5月24日
- 金子元久、両角亜希子、谷村英洋、山岸直司（学会発表）「職業キャリアと大学教育－職業人と大学生の認知構造比較によるアプローチ－」日本高等教育学会第13回大会（2010年5月30日、関西国際大学）
- 両角亜希子（講演）「国立大学法人会計の特徴について」私学高等教育研究所 第3回学校法人プロジェクト、2010年7月30日
- 両角亜希子（講演）「私立大学の経営分析と改善計画の具体方策－国内実態調査と米国大学の経験を踏まえて－」地域科学研究会・高等教育情報センターセミナー（私立大学・短大経営の改善・強化策）、2010年8月5日
- 両角亜希子（講演）「私立大学における戦略的経営－私高研・財務運営調査の最終報告」第47回日本私立大学協会大学経理部課長相当研修会、2010年10月29日（ホテルオークラ新潟）

教育心理学コース

秋田 喜代美（教授）

〈著書〉

- 秋田喜代美（単著）『保育のおもむき』ひかりのくに、2010. pp. 127.
- 秋田喜代美（編著）『保育内容 言葉』（柴崎正行・戸田雅美氏との共編）ミネルバ書房 2010 pp 189.
- 秋田喜代美「認知心理学は学習・教育の実践と研究に何をもたらしたか」市川伸一（編）『発達と学習』北大路書房、2010. p 2-27.
- 秋田喜代美「子どもと親と、そして絵本」さわださちこ・なかじまえりこ（編）『豊かな心をはぐくむこども絵本ガイド』主婦の友社2010, p 116-125.
- 秋田喜代美「読書と人間の発達：ブックスタートから学ぶ読書コミュニティの形成と発達」国立教育政策研究所（編）『読書教育への招待 確かな学力と豊かな心を育てるために』東洋館出版社 2010. p. 255-262.
- 秋田喜代美「学校教育の現代的問題と臨床発達心理学」長崎勤・藤野博（編）『学童期の支援：特別

- 支援教育をふまえて』 ミネルヴァ書房, 2011, p 64-76
- 〈翻訳書〉 バーバラ・K・キーヨ (著) 柘植雅義・秋田喜代美 (共訳) 『教室の中の気質と学級づくり: 縦断研究から見えてきた個の違いの理解と対応』 金子書房, 2010, pp 159.
- 〈雑誌論文〉
- Lewis, C. C., Akita, K. & Sato, M. 'Lesson study as a human science'. National Society for the Study of Education, Vol.109 (1), 222-237. 2010
- 中坪史典・秋田喜代美・増田時枝・安見克夫・砂上史子・箕輪潤子 「保育カンファレンスにおける保育者の語りの分析—保育者の感情の認識と表出を中心に—」 『乳幼児教育学研究』, 19, 1-10, 2011
- Nakatsubo, F, Akita, k., Masuda, T., Yasumi, K., Sunagami, F., & Minowa, J. 2010 'A comparative study of characteristic of teachers' narratives regarding recognition and expression of emotion among Japanese kindergartens: Analysis of teachers' narratives of video viewing.' *International Journal of Early Childhood Education*. 16 (2) 117-132
- 秋田喜代美 「12年間の学びで培う「社会的な知性」 『子どもと授業』 Vol. 66, 2-9, 2011.
- 秋田喜代美 「保育環境と子どもの変化の記述と分析」 『ベビーサイエンス』 9, 54, 2010.
- 秋田喜代美 「子どもにとって魅力ある授業とは」 『学校教育』 1113, 12-17. 2010.
- 秋田喜代美 「こども園でまもられるべき保育の質」 『月刊福祉』 93, (14), 36-37. 2010.
- 秋田喜代美 「子どもの経験に学ぶ授業分析の方法」 『教育研究』 1308, 14-17 2011
- 秋田喜代美 「言葉の豊かな担い手を育てるために」 『学校運営』, 595, 6-11. 2011
- 秋田喜代美 「保育におけるケアの問題—境界の変動によるケアの再組織化の時期」 日本教育方法学会 『巨大都市下の子どものケアと教育方法学』 日本教育方法学会第14回研究集会p 14-23. 2011.
- 〈研究報告書〉
- 秋田喜代美 (主任研究者) 『保育環境の質尺度の開発と保育研修利用に関する調査研究』 厚生労働省科学研究費補助金政策科学研究事業研究報告書 pp 200. 2010. (小田豊, 芦田宏, 鈴木正敏, 門田理世, 野口隆子, 箕輪潤子, 淀川裕美との共同研究)
- 秋田喜代美 (代表研究者) 『園内研修における自己評価法の活用に関する調査研究』 財団法人こども未来財団平成22年度児童関連サービス調査研究等事業報告書 pp 124. 2011.
- (小田豊, 芦田宏, 鈴木正敏, 門田理世, 野口隆子, 箕輪潤子, 淀川裕美との共同研究)
- 秋田喜代美 (代表研究者) 『こどもの経験から振り返る保育プロセス 明日のより良い保育のために実践事例集』 こども未来財団平成22年度児童関連サービス調査研究等事業報告書資料pp 84 2011.
- 網野武博・増田まゆみ・秋田喜代美・尾木まり・高辻千恵・一前春子 『保育所, 幼稚園, 小学校の連携等に関する現状分析および今後の展望に関する研究』 東京家政大学生生活科学研究研究所研究報告33, 1-14. 2010.
- 〈DVD教材作成〉
- 秋田喜代美・一前春子 (監訳) 子どもの発達シリーズ全6巻 全米乳幼児保育協会 (作) 『乳児第1巻 身体的発達』 『乳児第2巻 認知発達と言語発達』 『乳児第3巻 社会性と情動の発達』 『幼児第1巻 身体的発達』 『幼児第2巻 認知発達』 『幼児第3巻 社会性と情動の発達』 新宿スタジオ 2011
- 〈学会発表〉
- 秋田喜代美・野口隆子・芦田宏・鈴木正敏・箕輪潤子・淀川裕美・小田豊 「園文化から学校文化への移行経験 (1) 子どもの不安と学校表象の分析, (2) 親の認識の変化と子どもに及ぼす影響」 日本保育学会第63回大会発表論文要旨集, 378-379, 2010
- 砂上史子・秋田喜代美・中坪史典・増田時枝・箕輪潤子 「保育者の語りにみる実践知: 戸外と室内の片付けの比較」 日本保育学会第63回大会発表論文要旨集, 567
- 秋田喜代美 「質が高まる映像記録のために」 日本保育学会大会実行委員会企画シンポジウム1 「保育の質を高める記録のあり方を考える」 (話題提供者) 日本保育学会第63回大会発表論文要旨集 36-37.
- 秋田喜代美 「子どもの視点から持続可能な保育システムのあり方を探る—保育所最低基準 (ナショナルミニマム) と地域主権の両立を求めて」 (話題提供者) 日本保育学会第63回大会発表論文要旨集 pp 34-35.
- 秋田喜代美 「教師の幼小文化間移行経験—人事交流が教師に与えた経験の分析」 日本教育心理学会

第52回総会発表論文集 p 764. 2010

Nakatsubo, F., Akita, K., Sunagami, F., Minowa, J., Masuda, T. & Yasumi, K. 'A Comparative Study about Characteristics of Teachers' Narratives regarding Recognition and Expression of Emotion in Japanese Kindergartens.' OMEP (World Organization for Early Childhood Education) 26th world congress (Goteberg Sweden), 2010

秋田喜代美「幼児期と児童期の遊びと学びにおける課題から」学会課題研究シンポジウム「現代の子ども・青少年の社会的な力と関係性の構築」日本教育方法学会第46回大会発表要旨集 35-36. 2010.

安見克夫・増田時枝・秋田喜代美「幼児の生活リズムを形成する要因に関する研究（2）—継年縦断比較と群比較から捉えた生活リズムの変化」日本乳幼児教育学会第20回大会発表論文集66-67. 2010.

箕輪潤子・秋田喜代美・増田時枝・安見克夫・砂上史子・中坪史典「片付け場面における幼稚園の語りの検討—子どもの発達についての語りに注目して—」日本乳幼児教育学会代20回大会（関西学院大学）2010年10月136-137.

中坪史典・秋田喜代美・増田時枝・安見克夫・砂上史子・箕輪潤子「保育カンファレンスにおける幼稚園の語りの相違」日本乳幼児教育学会第20回大会（関西学院大学）2010年10月138-139.

秋田喜代美 2010.11.28「学校教育の実践と質的研究—教育心理学の立場から」「実践や学問に生かす質的研究」（シンポジウム話題提供者）第57回日本学校保健学会講演集, P 90.

砂上史子・秋田喜代美・増田時枝・安見克夫・中坪史典・箕輪潤子 2011.3.25「片付け場面の映像に対する保育者の語りの内容分析（1）保育の方法に関する語りを中心に（2）保育者の環状に関する語りを中心に（3）子どもの発達に関する語りを中心に」日本発達心理学会第22回大会発表論文集159-161.

野口隆子・秋田喜代美・芦田宏・淀川裕美・鈴木正敏・門田理世・箕輪潤子・小田豊「園文化から学校文化への移行経験に関する日本・台湾比較研究（1）保護者の認識の変化,（2）子どもの認識の変化」日本発達心理学会第22回大会発表論文集 656-657

〈学会招待講演〉

秋田喜代美「日本における保育士の処遇および研修体系の現状：市場化原理の中での保育の質の向上と専門家育成の困難」韓国嬰幼兒保育学会2010年春季大会 招待講演 韓国済州島 大会論文集 p 21-p 44. 2010.5.27

秋田喜代美「アートを中心に据えた園や学校づくりをもとめて—子どもの表現とアート」日本美術科教育学会記念講演 学会誌『美術教育』72-81. 2010.3

秋田喜代美「英語授業研究と教職の専門性への社会文化的アプローチ」大学英語教育学会記念講演 宮城大学, 225-226. 2010.9.7

Akita, K. 'Recent Curriculum Reform in Japan: The Future of Everyday-Life-Oriented Curriculum'. The 6th Korean Society of Early Childhood Education International conference. Busan: Kyungsung University : Korea pp 27-35. 2010.10.16

秋田喜代美「幼児期から児童期への教育：こども・保護者・教師の経験から考える幼小文化間移行」ベネッセ東アジアこども学会議「幼小接続—教育の公平性と質の関係から」北京：中華女子学院講演 2010.11.

岡田 猛 (教授)

〈著書〉

岡田猛・横地早和子 (2010). 科学と芸術における創造 楠見孝 (編) 思考と言語 現代の認知心理学第3巻. 161-188, 北大路書房

縣拓充・岡田猛 (2010). 創造的教養の育成. 海保博之・北村英哉・竹村和久 (編) 感情と思考の科学事典. 356-357, 朝倉書店

岡田猛・山内保典 (2010). 科学の創造. 海保博之・北村英哉・竹村和久 (編) 感情と思考の科学事典. 358-359, 朝倉書店

山内保典・岡田猛 (2010). 科学コラボレーション. 海保博之・北村英哉・竹村和久 (編) 感情と思考の科学事典. 360-361, 朝倉書店

横地早和子・岡田猛 (2010). 美術の創造. 海保博之・北村英哉・竹村和久 (編) 感情と思考の科学事典. 362-363, 朝倉書店

〈論文〉

縣拓充・岡田猛 (2010). 美術の創作活動に対するイメージが表現・鑑賞への動機づけに及ぼす影響 教育心理学研究, 58, 438-451.

〈査読付き国際学会発表〉

Eguchi, M. & Okada, T. (2010). Art-ethnography to Analyze the Role of Sketches in Car Designing. Short Presentation of The First International Conference on Design Creativity, Kobe International Conference Center, Kobe, JAPAN.

佐々木 正 人 (教授)

〈学会誌論文〉

野中哲士・西崎実穂・佐々木正人 (2010) デッサンのダイナミックス 認知科学 17巻4号 pp. 691-712.

佐藤由紀・渋谷友紀・佐々木正人 (2010) 早期失明者における「発話にともなう手振り」の現れの記述と事例の構造分析—手振りの他者志向性再考 認知科学 17巻4号 pp. 729-760.

佐々木正人 (2011) 起き上がるカプトムシの観察：環境—行為系の創発 質的心理学研究 10号 pp. 46-63.

西崎実穂・野中哲士・佐々木正人 (2011) 一枚のデッサンが成立する過程—姿勢に現れる視覚の役割 質的心理学研究 10号 pp. 63-78.

〈一般雑誌〉

佐々木正人 大切な皮膚と手 現代詩手帖「大野一雄追悼特集」2010年9月号 pp. 110-111

佐々木正人 相撲の知覚 現代思想 (特集大相撲) 2010年11月号 pp. 102-115

佐々木正人 環境の意味を探るための言葉 トレーニング・ジャーナル 2010年11月号 pp. 22-26

伊藤精英・佐々木正人 ノイズに意味が埋まっている—盲人の生活聴力 文学 岩波書店 2010年11・12月号 11巻6号 pp. 142-155

佐々木正人 写真に写った自分を見ると、自分と違うなあと感じるのはなぜか? Coyote 2011年1月号 pp. 32-33.

南風原 朝 和 (教授)

〈論文等〉

「個を重視する量的研究の可能性」, 『カウンセリング研究』, 第43巻, 第4号, 303-307頁, 2010年12月

〈学会発表等〉

シンポジウム「教育心理学研究に役立つ構造方程式モデリング」(指定討論), 日本教育心理学会第52回総会 (早稲田大学), 2010年8月

「『個』の心理学と『集団』の統計学—乖離を埋める統計教育のあり方」(シンポジウム「統計学と心理学の関わりと隔たり」における話題提供), 日本心理学会第74回大会 (大阪大学), 2010年9月
シンポジウム「ソーシャルキャピタルとマルチレベル分析」(指定討論), 日本行動計量学会第38回大会 (埼玉大学), 2010年9月

遠 藤 利 彦 (准教授)

〈著書〉

遠藤利彦 (分担・単著) (2010). 心理臨床の基礎としての発達心理学. 坂本真士・伊藤絵美・杉山崇 (編), 臨床に活かす基礎心理学 (pp. 127-154). 東京大学出版会.

遠藤利彦 (分担・単著) (2010). 心の理論. 乾敏郎・川口潤・吉川左紀子 (編), よくわかる認知科学 (pp. 12-13). ミネルヴァ書房.

遠藤利彦 (分担・単著) (2010). 心の理論の起源と発達. 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 (編), 認知心理学 (pp. 372-373). 有斐閣.

遠藤利彦 (分担・単著) (2010). 感情と情意理解の発達. 市川伸一, 現代の認知心理学 5 : 発達と学習 (pp. 129-169). 北大路書房.

〈学術誌論文〉

遠藤利彦 (2010). アタッチメント理論の現在：生涯発達と臨床実践の視座からその行方を占う. 教育心理学年報, 49, 150-161.

遠藤利彦 (2010). 彷徨する「情動的知能」：その行方を占う. 教育と医学, 58 (10), 83-90.

〈その他論文・記事等〉

遠藤利彦 (2010). 縦断研究はどこに向かうべきか：「点をつなぐ」から「線を束ねる」へ. 日本発達心理学会ニューズレター, 60, 1-3.

遠藤利彦・頭金多絵・中瀬泰子・長谷川武弘 (2010). 育児や保育のなかの当たり前を問い直す：寄り添うってどんなこと? (座談会記録) 赤ちゃん学カフェ, 3, 53-61.

遠藤利彦 (2010). 完璧を目指さない子育てがいい. 清流, 17 (12), 24-25.

〈報告書・紀要論文等〉

遠藤利彦 (2010). 人間らしさの進化と発達—感情と社会性を中心に—. 共愛学園前橋国際大学論集, 10, 29-48.

遠藤利彦 (2010). アタッチメント理論の現状と課題：進化・発達・臨床の視座から. 子どもの虹情

報研修センター（日本虐待・思春期問題情報研修センター）紀要，8，23-38.

〈学会発表〉

遠藤利彦 企画・討論：公開シンポジウム「赤ちゃんが育つ場・赤ちゃんが育む場」（東京大学安田講堂）. 2010年6月13日.

遠藤利彦 話題提供：情動の逆説的二重性から見る自己制御. 日本教育心理学会第52回総会・自主シンポジウム「自己制御のフロンティア」（早稲田大学）. 2010年8月27日.

遠藤利彦 指定討論：情動とその表象化. 日本教育心理学会第52回総会・学会企画シンポジウム「情動とその表象化」（早稲田大学）. 2010年8月29日.

遠藤利彦 指定討論：情動の両刃を研ぎ直す：情動知性への提言. 日本心理学会第74回大会ワークショップ「情動の両刃を研ぎ直す」（大阪大学）. 2010年9月20日.

遠藤利彦 指定討論：対人関係におけるネガティブ感情の適応的意義. 日本心理学会第74回大会ワークショップ「対人関係におけるネガティブ感情の適応的意義」（大阪大学）. 2010年9月21日.

遠藤利彦 指定討論：アタッチメントの視座から親の主観性に迫る. 日本心理学会第74回大会ワークショップ「アタッチメントの視座から親の主観性に迫る」（大阪大学）. 2010年9月22日.

遠藤利彦 招待講演：情動・感情の発達とその支援. 平成22年度コミュニケーション発達支援とスク립ト研究会・臨床発達心理士神奈川支部例会（横浜国立大学）. 2010年6月19日.

遠藤利彦 招待講演：アタッチメントの視座から見る対人関係の生涯発達とその障害. 愛媛県小児神経研究会（愛媛県民文化会館：ひめぎんホール）. 2010年7月10日.

遠藤利彦 話題提供講演：感情に潜む知性をいかに生かすか？ 2010年度日本心理学会 公開シンポジウム「頭の良さについて考える：IQとEI」（東京会場：科学技術館サイエンスホール・鹿児島会場：鹿児島大学稲森会館）. 2010年10月16日（東京）. 12月4日（鹿児島）.

遠藤利彦 招待講演：彷徨するEmotional Intelligence：「情に対する知」から「情に潜む知」へ. 日本発達心理学会・認知発達理論分科会（早稲田大学）. 2010年12月18日.

遠藤利彦 指定討論：ライフスパンを通じた双生児の心身の発達と成熟. 第25回日本双生児研究学会

講演会シンポジウム（お茶の水女子大学）. 2011年1月29日.

遠藤利彦 ファシリテーター：発達における変化プロセスの検討. 日本発達心理学会第22回大会・ラウンドテーブル「発達における変化プロセスの検討」（東京学芸大学）. 2011年3月25日.

遠藤利彦 企画・討論：現代発達心理学の行方を占う：社会・文化に生きる人間. 日本発達心理学会第22回大会・出版企画委員会企画シンポジウム「現代発達心理学の行方を占う—社会・文化に生きる人間—」（東京学芸大学）. 2011年3月26日.

遠藤利彦 話題提供：原点回帰が含意するもの. 日本発達心理学会第22回大会・自主シンポジウム「実践に役立つアタッチメント概念の可能性と制約—生物学的普遍性と文化・文脈的制約の両方の視点から—」（東京学芸大学）. 2011年3月26日.

遠藤利彦 話題提供：“good-enough”な情動制御. 日本発達心理学会第22回大会・大会企画シンポジウム「情動制御の発達—関係性，自己の視座から—」（東京学芸大学）. 2011年3月27日.

〈講演〉

遠藤利彦 情短施設の支援を愛着理論の立場から見直す. 全国情緒障害児短期治療施設職員研修会（ホテルレイクビュー水戸）. 2010年8月5日.

遠藤利彦 アタッチメントの障害と病理. 臨床発達心理士応用研修会（日本女子大学）. 2010年10月31日.

遠藤利彦 乳幼児期の発達：特に愛着とその病理に着目して. 平成22年度治療機関・施設専門研修会講演（子どもの虹情報研修センター）. 2010年11月10日.

遠藤利彦 発達臨床的視座から見るアタッチメント：虐待等との関連も含めて. 東京都児童相談センター・臨床セミナー（東京都児童相談センター）. 2010年11月15日.

遠藤利彦 発達心理学の立場から乳幼児期の子育て・子育ての基本を見直す. 茅ヶ崎市幼児教育研修会（茅ヶ崎市女性センター）. 2010年12月27日.

遠藤利彦 発達心理学の立場から子育て・子育ての基本を見直す：ジョイントネスとアタッチメント. 富山大学周産期医療環境整備事業講演会（富山大学附属病院）. 2011年1月21日.

遠藤利彦 子育て・子育ての発達心理学. 茅ヶ崎市教育講演会（茅ヶ崎市教育センター）. 2011年3

月6日.

遠藤利彦 乳幼児期におけるアタッチメントと保育. 日本保育協会・保育e-learning (<http://e-learning.nippo.or.jp/>). 2011年3月より公開.

針生悦子 (准教授)

〈著書〉

針生悦子 「子どもの言語獲得」重野純 (編) 「言語とこころ: 心理言語学の世界を探検する」 (pp. 59-83), 新曜社, 2010.

針生悦子 「言語力の発達」日本認知心理学会 (監修) 市川伸一 (編) 「発達と学習」 (現代の認知心理学 5) (pp. 28-53), 北大路書房, 2010.

〈学術論文〉

針生悦子 「幼児における擬音語の理解: 濁音文字知識に注目して」 教育心理学研究, 第58巻第3号, pp. 275-284, 2010.

Haryu, E., Imai, M. & Okada, H. Object similarity bootstraps young children to action-based verb extension. *Child Development*, 82 (2), pp. 674-686, 2011.

〈学会発表〉

宮崎美智子・岡田浩之・針生悦子・今井むつみ 「対成人・対幼児発話におけるオノマトベ表出の違い: 母子絵本読み調査における検討から」 電子情報通信学会技術研究報告, 110 (63), pp. 27-31, 2010年5月

針生悦子・梶川祥世 「乳児における単語の聴き取り: 助詞という手がかりに注目して」 日本心理学会第74回大会発表論文集, p. 1019. 大阪大学, 2010年9月

金重利典・針生悦子 「乳児の表情理解: 生後4ヶ月と6ヶ月における検討」 日本心理学会第74回大会発表論文集, p. 1018. 大阪大学, 2010年9月

山本寿子・針生悦子 「24ヶ月児の単語認知におけるピッチアクセント情報の役割」 日本心理学会第74回大会発表論文集, p. 1013. 大阪大学, 2010年9月

Jiang, L. & Haryu, E. Young Chinese-speaking children's understanding of the correspondence between verb meaning and argument structure. *Paper presented at the 35th Boston University Conference on Language Development*. Boston, 2010年11月

針生悦子 「日本語獲得の起爆剤としての助詞」 日本発達心理学会第22回大会論文集, p. 139, 2011

年3月

Kaneshige, T. & Haryu, E. 4- and 6-month-old infants' perception of facial expressions. *Paper presented at the Biennial Meeting of the Society for Research in Child Development*. Montreal, 2011年3月

臨床心理学コース

下山晴彦 (教授)

〈著書〉

松丸未来・下山晴彦・Paul Stallard (共著) 2010 『子どもと若者のための認知行動療法 実践セミナー』 金剛出版 pp. 199.

山上敏子・下山晴彦 (共著) 2010 『山上敏子の行動療法講義with東大・下山研究室』 金剛出版 pp. 281.

〈監修〉

下山晴彦・中嶋義文 2011 『家族のための よくわかる うつ』 池田書店 pp. 207.

〈編著〉

Haruhiko Shimoyama (ed) 2011 『An International Comparison of Clinical Psychology in Practice: West Meets East』 Kazamashobo pp. 210.

下山晴彦 (編著) 2011 『認知行動療法を学ぶ』 金剛出版 pp. 343.

東京大学理学部学生支援室/下山晴彦 (編著) 2011 『東大理学部発 学生相談・学生支援の新しいかたち—大学コミュニティで支える学生生活—』 岩崎学術出版社 pp. 203.

下山晴彦 (編著) 2010 『臨床心理学ブックガイド—心理職をめざす人のための93冊—』 金剛出版 pp. 286.

下山晴彦・村瀬嘉代子 (編著) 2010 『今, 心理職に求められていること』 誠信書房 pp. 254.

〈専門誌責任編集〉

下山晴彦 (編著) 2011 『特集: 認知行動療法の最前線』 精神療法37 (1), pp. 3-86.

下山晴彦 (編著) 2011 『特集: 今, 臨床心理学に求められていること』 臨床心理学11 (1), pp. 3-62.

〈専門論文〉

下山晴彦 2011 『教育すること, 治療すること, カウンセリングすること』 精神科治療学26 (3), pp. 295-300.

松丸未来・下山晴彦 2011 『学校保健を支える専門職: スクールカウンセラーの役割』 小児科臨床増

- 刊号』 pp. 50-58.
- 下山晴彦 2011『認知行動療法とスーパービジョン
臨床心理学』11 (4) pp. 617-621.
- 下山晴彦 2011『認知行動療法への時代的要請 精神療法』37 (1) pp. 3-7.
- 下山晴彦 2011『今、臨床心理学に求められること
-特集にあたって』臨床心理学11 (1) pp. 3-8.
- 下山晴彦 2011『児童思春期の強迫性障害の認知行動療法プログラムの研究1-プログラムの開発と評価-』東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 34, pp. 29-36.
- 高柳めぐみ・猪ノ口明美・中野美奈・梅垣佑介・川崎舞子・下山晴彦 2011『児童青年期の抑うつ
の認知行動療法プログラムの研究1-子どもと若者の抑うつ
の現状と介入法の展望-』東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 34, pp. 68-74.
- 堤亜美・羽澄恵・菅沼慎一郎・佐藤有里那・向江亮・鴛渕るわ・下山晴彦 2011『児童青年期の抑うつ
の認知行動療法プログラムの研究2-認知療法プログラムの開発に向けて-』東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 34, pp. 75-82.
- 菅沼慎一郎・吉田沙蘭・小堀綾子・砂川芽吹・下山晴彦 2011『筋ジストロフィー患者の家族の心理
に関する研究-筋ジストロフィー患者を介護する母親が抱える困難とその対処に焦点を当てて-』東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 34, pp. 83-90.
- 鴛渕るわ・堤亜美・松丸未来・石橋太加志・下山晴彦 2011『中高生を対象とした総合的心理教育プログラムの実践的研究』東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要, 34, pp. 116-124.
- 〈分担執筆〉**
- 下山晴彦 2011『心理療法におけることば-認知行動療法の立場から-』In 妙木浩之 (編)『心理療法における言葉: 臨床言語論1』至文堂 pp. 27-38.
- 下山晴彦・榎本真理子 2011『大学コミュニティと協働する学生相談を創る』In 東京大学理学部学生支援室, 下山晴彦 (編著)『東大理学部発 学生相談・学生支援の新しいかたち- 大学コミュニティで支える学生生活-』岩崎学術出版社 pp. 89-99.
- 下山晴彦 2010『第1回講義 認知行動療法とは何か』In 下山晴彦 (編著)『認知行動療法を学ぶ』金剛出版 pp. 14-33.
- 下山晴彦 2010『第2回講義 認知行動療法の方法』In 下山晴彦 (編著)『認知行動療法を学ぶ』金剛出版 pp. 34-55.
- 下山晴彦 2010『第3回講義 認知行動療法を学ぶための正しい知識』In 下山晴彦 (編著)『認知行動療法を学ぶ』金剛出版 pp. 56-72.
- 下山晴彦 2010『第14回講義 子どもと若者に適用するための方法』In 下山晴彦 (編著)『認知行動療法を学ぶ』金剛出版 pp. 249-268.
- 下山晴彦 2010『心理専門職になるためのカリキュラム』, 下山晴彦 (編)『臨床心理学ガイドブック-心理職をめざす人のための93冊-』金剛出版 pp. 15-23.
- 〈学会発表〉**
- 平林恵美・西村詩織・下山晴彦 2010『子どもの強迫性障害に対する認知行動療法プログラム (1) -プログラム概要-』第2回不安障害学会学術大会
- 吉田沙蘭・藤岡勲・下山晴彦 2010『子どもの強迫性障害に対する認知行動療法プログラム (2) -洗いに対するエクスポージャーと家族関係調整を並行して取り入れた一例-』第2回不安障害学会学術大会
- 野田香織・下山晴彦 2010『子どもの強迫性障害に対する認知行動療法プログラム (3) -家族との協働関係の構築と学校との連携を取り入れた一例-』第2回不安障害学会学術大会
- 下山晴彦・野田香織・吉田沙蘭 2010『子どもの強迫性障害に対する認知行動療法プログラム (1) -プログラムの概要-』日本心理臨床学会第29回大会
- 吉田沙蘭・野田香織・下山晴彦 2010『子どもの強迫性障害に対する認知行動療法プログラム (2) -暴露反応妨害法を用いた事例の紹介-』日本心理臨床学会第29回大会
- 野田香織・吉田沙蘭・下山晴彦 2010『子どもの強迫性障害に対する認知行動療法プログラム (3) -暴露反応妨害法の実施が困難な事例の紹介-』日本心理臨床学会第29回大会
- 中 釜 洋 子 (教授)**
〈雑誌論文 (依頼論文)〉
- 中釜洋子 (単著), 「家族面接としての家族療法」, 臨床心理学, 第10巻第6号, 2011.11, p.

854-859.

〈著書・翻訳・編著・DVDなど〉

中釜洋子（共監訳）, 『夫婦面接のための4ステップー症状からシステムへ』, (中村伸一との共監訳) (ミニニューチン, S, ニコルス, M.N. & リー, W-Y. 著 2007 Assessing Families and Couples : From Symptom to system. Pearson Education, Inc.), 金剛出版, 2010.12, 総頁数286p.

中釜洋子（共編著）, 『近藤邦夫論考集：学校臨床心理学への歩みー子ども達との出会い, 教師達との出会い』, (近藤邦夫著／保坂亨・堀田香織・高田治との共編著), 福村出版, 2010.06, 総頁数440p.

中釜洋子（単著）, (DVD教材), 『説き明かし・私の家族面接3 初回面接の実際』, 中島映像教材出版, 2010.06.

〈雑誌論文（紀要など）〉

中釜洋子（共著）, 「家族発達と情緒的自立一つながる力, 愛する力, ケアする力の醸成をめぐってー」, (平木典子・友田尋子との共著), 平成19年度～平成22年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書 研究代表者：畠中宗一 課題番号19300243 情緒的自立に関する総合的研究 2011.03, p. 93-113

中釜洋子（単著）, 「大澤論文へのコメント」, 上智大学臨床心理研究 第33巻, 上智大学大学院臨床心理学コース, 2011.03, p. 82-84

〈分担執筆〉

中釜洋子（単著）, 「解題：深い子ども理解から広くて深い理解への道」, 近藤邦夫著／保坂亨・堀田香織・中釜洋子他編 『近藤邦夫論考集：学校臨床心理学への歩みー子ども達との出会い, 教師達との出会い』, 福村出版, 2010.06, p. 224-228

〈その他〉

中釜洋子（共著）, 「座談会：ファミリーバイオレンスをめぐる諸問題ー連載を終えて」(岩村正彦・秋元美世・大村敦志との共著), ジュリスト 第1413号, 有斐閣, 2010.12, p. 60-86

中釜洋子（単著）, 「村瀬嘉代子編著『統合的心理援助への道：真の統合のための六つの対話 金剛出版』, 精神療法, 第36巻第6号, 2010.12, p. 114-115.

中釜洋子（単著）, 「ミヒヤエル・L・クロスリー著／角山富雄, 田中勝博監訳 『ナラティブ心理学セミナーー自己・トラウマ・意味の構築』, 家族

療法研究, 第27巻第1号, 2010.08, p. 89-90

中釜洋子（単著）, 「私の家族療法理論：大会シンポジウムⅡ（説き明かし・私の家族面接）」, 家族療法研究, 第27巻第2号, 2010.04, p. 27

〈シンポジウム・学会発表など〉

中釜洋子（自主シンポジウム）, 「児童福祉施設における心理臨床について その7 子どもがよりよく育つ環境をつくるためにー」, 塩谷隼平・田附あえか・藤岡大輔・古館有希子・大塚斉・中釜洋子・高田治, 日本心理臨床学会第29回大会 2010.09, 東北大学（仙台）

中釜洋子（特別講演）, 「不妊カップルの理解一文脈を読む, 多世代をみる」, 日本生殖医療心理カウンセリング学会第8回大会, 2011.02, (東京)

Nakagama, H. (Symposium Open to Public, Chairperson). The 2nd Regional Symposium of CIFA (Consortium of Institutes of Family in the Asian Region) "Child Rearing in Changing Sciotier" Tokyo Univ. Yasuda Auditorium.

中釜洋子（大会ワークショップ）, 「家族療法の歴史をたどる」 日本家族心理学会第27回大会, 2010.08, 子どもの城（東京）

中釜洋子（口頭発表）, 「イギリスの家族療法家養成・訓練システムに学ぶ（1）ーイギリスの家族療法家訓練システムの概要」, 田附あえか・大塚斉・藤田博康・中釜洋子・平木典子, 日本家族心理学会第27回大会, 2010.08, 子どもの城（東京）

中釜洋子（口頭発表）, 「イギリスの家族療法家養成・訓練システムに学ぶ（2）ー多職種・多領域におけるシステム的な視点の有用性」, 大塚斉・田附あえか・藤田博康・中釜洋子・平木典子, 日本家族心理学会第27回大会, 2010.08, 子どもの城（東京）

中釜洋子（口頭発表）, 「イギリスの家族療法家養成・訓練システムに学ぶ（3）ー家族・システムック援助実践のわが国へのよりいっそうの普及を目指して」, 藤田博康・大塚斉・田附あえか・中釜洋子・平木典子, 日本家族心理学会第27回大会, 2010.08, 子どもの城（東京）

中釜洋子（自主シンポジウム）, 「家族臨床のプロセス研究：合同面接の体験過程を問う」, 大町知久・中釜洋子・田附あえか・大塚斉・岩壁茂, 日本家族心理学会第27回大会, 2010.08, 子どもの城（東京）

中釜洋子（大会ワークショップ）, 「家族面接入門」,

中村伸一・中釜洋子・野末武義, 家族療学会第27回大会, 2010.06, ビッグパレットふくしま(福島)

中釜洋子(大会シンポジウム), 「説き明かし・私の家族面接」, 家族療学会第27回大会, 2010.06, ビッグパレットふくしま(福島)

高橋美保(准教授)

〈雑誌・紀要論文〉

高橋美保(単著) 求職者を対象とした認知行動療法を用いたストレスマネジメントセミナーの効果 臨床心理学, 10-4, 2010, 550-560.

高橋美保(単著) 失業者への心理的援助に関する展望 臨床心理学, 10-3, 2010, 399-408.

高橋美保(単著) 大学教員として臨床心理学の発展を考える(2) 特集: 今, 臨床心理学に求められていること, 臨床心理学, 11-1, 2011, 50-55.

高橋美保・森田慎一郎・石津和子(共著) 集団主義とコミュニティ感覚がメンタルヘルスに及ぼす影響—日・中・韓の国際比較を通して— 東京大学大学院教育学研究科紀要, 50, 2011, 159-180.

高橋美保・石橋太加志・森田慎一郎・石津和子(共著) 「高校生におけるキャリア教育の課題」—失業に焦点をあてたキャリア教育の有効性の検討から— 東京大学大学院教育学研究科高等教育高度化センター公募研究報告書, 2011, 165-187.

高橋美保(単著) “無” 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース, 34, 2011, 116-117.

石津和子・高橋美保・森田慎一郎(共著) 失業者に対する意識—失業者との関係性に着目したKJ法による分析— 駒沢女子大学研究紀要, 17, 2011, 23-37.

森田慎一郎・石津和子・高橋美保(共著) 中国における高等教育の動向と学生のキャリア意識 武蔵野大学人間関係学部紀要, 8, 2011, 79-94.

〈学会発表〉

高橋美保・森田慎一郎・石津和子(2011). 業者のメンタルヘルス—コミュニティで生きる人として 第17回日本行動医学会学術総会抄録集, 43.

高橋美保・石津和子・森田慎一郎(2010). 失業者に対する意識(2)—失業者への意識を探るための尺度の作成— 日本心理学会第74回大会発表論文集, 154.

高橋美保・森田慎一郎・石津和子(2010). 失業者

に対する意識—失業者との関係性および距離に着目して— 日本コミュニティ心理学会第13回大会プログラム・発表論文集, 92-93.

森田慎一郎・高橋美保・石津和子(2010). 失業者に対する意識(3)—キャリア意識との関連を中心に— 日本心理学会第74回大会発表論文集, 155.

石津和子・森田慎一郎・高橋美保(2010). 失業者に対する意識(1)—KJ法によるイメージの分類— 日本心理学会第74回大会発表論文集, 153.

〈分担執筆〉

高橋美保(単著) コミュニティ心理学 理論と実践 下山晴彦(編著) 心理職を目指す人のための93冊 臨床心理学ブックガイド 金剛出版 2010 pp.116-117.

〈その他の業績〉

高橋美保(パネリスト) 働く人へのメンタルヘルス 平成22年度第4回全国相談担当者研修会 非正規労働者の現状と課題を学ぶ～健やかに働ける支援のあり方～, 財団法人女性労働協会, 女性と仕事の未来館, 2011年2月.

高橋美保(話題提供者) 中高年男性の失業に関する研究, 学会委員会企画シンポジウム 「文化」と「発達」が出会う地平: 第12号特集への投稿準備企画, 茨城大学, 2010年11月.

高橋美保(発表者) キャリア教育: 働くことを見つめ直す, 東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化センター主催シンポジウム, 東京大学, 2010年9月.

高橋美保(講演者) 失業体験を支える心のホネ, 第113回(平成22年秋季) 東京大学公開講座, 東京大学, 2010年4月.

身体教育学コース

多賀 巖太郎(教授)

〈雑誌論文〉

F. Homae, H. Watanabe, T. Ootobe, T. Nakano, T. Go, Y. Konishi, G. Taga: Development of global cortical networks in early infancy. Journal of Neuroscience 30: 4877-4882, 2010

Y. Yabe, G. Taga: Influence of experience of treadmill exercise on the visual perception on a treadmill. Japanese Psychological Research 52, 67-77, 2010

H. Watanabe, G. Taga: Initial-state dependency of learning in young infants. Human Movement Science

30, 125-142, 2011

〈著書〉

多賀巖太郎：幼児の脳の発達から見た保育・教育の現状と将来「乳幼児のための脳科学」（小泉英明編著）フリーダム，69-120，2010

〈その他の業績〉

G. Taga: Spontaneous activity and perceptual-cognitive responses in young infants. Functional Near Infrared Spectroscopy. Boston, Oct. 15, 2010 (invited)

G. Taga: Near infrared spectroscopy to study the developing brain. Theo Murphy International Scientific Discussion Meeting on Biomedical Optics, London, Nov. 9, 2010 (invited)

多賀巖太郎：脳の機能発達における自己組織的構成とダーウィニズム的選択，第10回日本赤ちゃん学会，東京，2010.6.12

多賀巖太郎：発達科学における光トポグラフィ研究—自発活動と課題関連応答から見えてくるもの，第12回日本ヒト脳機能マッピング学会，東京，2010.9.22（招待）

多賀巖太郎：赤ちゃんの脳の発達のしくみ，JST/CREST「脳の機能発達と学習メカニズムの解明」第6回公開シンポジウム，東京，2010.10.30

多賀巖太郎：小児の発達のダイナミクス，こころの発達と障害の教育研究コンソーシアム第1回公開シンポジウム，東京，2010.11.7

多賀巖太郎：発達脳科学の現在，日本学術会議心の先端研究と心理学専門教育分科会公開シンポジウム「心の先端研究への期待」，京都，2011.2.19（招待）

山本義春（教授）

〈論文〉

Pan, W., S. Kwak, Y. Liu, Z. Fang, Y. Sun, B. Qing, and Y. Yamamoto. Traditional Chinese medicine improves activities of daily living in Parkinson's disease. *Parkinson's Disease* 2011: 789506-1-7, 2011.

山本義春. 生体のマルチスケールゆらぎ～心拍変動と身体活動時系列の長期相関と病態～. 診断と新薬 48 : 261-263, 2011.

Kishi, A., H. Yasuda, T. Matsumoto, Y. Inami, J. Horiguchi, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Sleep stage transitions in healthy humans altered by central monoaminergic antagonist. *Methods of Information in Medicine* 49: 458-461, 2010.

Aihara, T., K. Kitajo, D. Nozaki, and Y. Yamamoto. How does stochastic resonance work within the human brain? -- psychophysics of internal and external noise. *Chemical Physics* 375: 616-624, 2010.

Yamanaka, K. and Y. Yamamoto. Lateralized EEG power and phase dynamics related to motor response execution. *Clinical Neurophysiology* 121: 1711-1718, 2010.

Nakamura, T., M. Sone, N. Aoyagi, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Association of local statistics of locomotor activity with momentary depressive mood. *International Journal of Bioelectromagnetism* 12: 121-126, 2010.

Hachizuka, M., K. Yoshiuchi, Y. Yamamoto, S. Iwase, K. Nakagawa, K. Kawagoe, and A. Akabayashi. The development of a personal digital assistant (PDA) system to collect symptom information in home hospice patients. *Journal of Palliative Medicine* 13: 647-651, 2010.

Nakamura, T., S. K. Schwander, R. Donnelly, F. Ortega, F. Togo, G. Broderick, Y. Yamamoto, N. S. Cherniack, D. Rapoport, and B. H. Natelson. Cytokines across the night in chronic fatigue syndrome with and without fibromyalgia. *Clinical and Vaccine Immunology* 17: 582-587, 2010.

Takeda, Y., M. Sato, K. Yamanaka, D. Nozaki, and Y. Yamamoto. A generalized method to estimate waveforms common across trials from EEGs. *NeuroImage* 51: 629-641, 2010.

中村亨, 内匠透, 吉内一浩, 山本義春. 身体活動時系列にみる動物行動の組織化とその生成機序. 計測と制御 49 : 844-849, 2010.

東郷史治, 佐々木司, 山本義春. 日常生活で活かす工夫—うつ・不安障害患者への治療アドバイス—毎日行える運動. 精神科 17 : 173-178, 2010.

〈招待講演・シンポジウム講演〉

山本義春 自由行動下の生体信号におけるバースト生成と病態. 第16回創発システムシンポジウム・チュートリアル講演, 富山, 2010年8月.

山本義春 生体のマルチスケールゆらぎ～心拍変動と身体活動度時系列の長期記憶と病態～. 第58回循環力学研究会招待講演, 東京, 2010年5月.

野崎大地 (教授)

〈雑誌論文〉

Aihara T, Kitajo K, Nozaki D, Yamamoto Y, "How does stochastic resonance work within the human brain? — psychophysics of internal and external noise", *Chemical Physics*, Vol. 375, 2010, pp. 616-624.

Abe MO, Masani K, Nozaki D, Akai M, Nakazawa K, "Temporal correlations in center of body mass fluctuation during standing and walking", *Human Movement Science*, Vol. 29, 2010, pp. 556-566

教職開発コース教授

佐藤学 (教授)

〈著書：単著〉

“교육개혁을 디자인한다” 孫于正訳 (『教育改革をデザインする』韓国版, 再出版) Lifelong Learning Books: Seoul, Korea, November 2009. 178p.

『教育の方法』放送大学叢書 左右社 2010年7月 196p

『学校的挑戦 = 創建学習の共同体』(『学校の挑戦』中国語版) 鐘啓泉訳 華東師範大学出版社 中華人民共和国 2010年8月 219p.)

〈著書：分担執筆〉

Lesson Study as a Human Science, Co-authored with Catherine Lewis and Kiyomi Akita, William R. Penuel and Kevin O'Connor eds, *Learning Research as a Human Science: National Society for the Study of Education (NSSE) The 109th Yearbook Issue 1*, Teachers College Press, June 2010, pp.222-237.

Imaging Neo-Liberalism, the Hidden Realities of the Cultural Politics of School Reform; Teachers and Students in a Globalized Japan (David Blake Willis and Jeremy Rappleye eds. *Reimagining Japanese Education: Borders, Transfers, Circulations, and the Comparative*, Oxford Studies in Comparative Education, Symposium Books. March 2011, pp. 219-240.)

「希望の学校がここにある—『学びの共同体』のヴィジョンと哲学の源流」(デボラ・マイヤー著 北田佳子訳『学校を変えるカーイースト・ハーレムの小さな挑戦』岩波書店 2011年3月 pp. 277-284.)

「驚くべき学びの世界へ」 「レッジョ・エミリアの教育—その背景と特徴」(佐藤学監修・ワタリウム美術館『驚くべき学びの世界—レッジョ・エ

ミリアの幼児教育』ACCESS Co.Ltd. 2011年3月 pp. 7-9. Pp. 332-335.)

〈翻訳〉

佐藤学監修・ワタリウム美術館編『驚くべき学びの世界—レッジョ・エミリアの幼児教育』(ACCESS CO.LTD. 2011年3月 Reggio Children ed. *Wonder of Learning: A Hundred Languages of Children*, Reggio Children Italy 2011.)

〈その他〉

「学校見聞録」(連載)(『総合教育技術』小学館 2010年4月-2011年3月)

「学び合う関係」(連載3回)(日本保育協会『保育界』2010年9月10月11月)

「『教える専門家』から『学びの専門家』へ」(『教育と医学』2010年12月号巻頭言 慶應大学出版会 pp. 2-3.)

「刊行によせて」(七木田文彦『健康教育教科「保健科」成立の政策形成』日本図書センター 2010年11月 pp. i-ii.)

「医療と哲学・医療の新しい専門家像」(『The Lung; Perspectives』2010年10月号 メディカルレビュー社 pp. 83-85.)

「巻頭言・言語活動の教育」(日本国語教育学会『月刊・国語教育研究』2011年3月号 東洋館出版社 p. 1.)

〈招待講演〉

School Reform toward Learning Community: In Defense of Public Education against Neo-Liberal Policies, Invited Keynote Speech, APS Global Education Conference 2010, Academy of Principals in Singapore, June 3 2010.

Retrospect and Prospect of Lesson Studies in Japan, Invited Keynote Speech APS 2010 Lesson Study Conference, Singapore, June 4 2010.

Implications to Policy Matters about “Quality” of Early Childhood of Education and Care in Japan: A Commentary on Professor Chris Pascal’s Keynote, The 13th Conference on Early Childhood Education and Care, OECD-Japan Seminar, June 8, 2010.

Summative and General Commentary in the 13th OECD-Japan Seminar: Pursuing Professional Development and Leading Quality in ECEC, The 13th Conference on Early Childhood Education and Care, OECD-Japan Seminar, June 9, 2010

Cultural Politics and the Practical Discourse of School

Reform in Globalized Japan, Invited Keynote of the Symposium "Globalization and Education in Japan: Borders and Risk in the Imaging Japanese Education", World Congress of Comparative Education Societies, Istanbul, Turkey, June 17, 2010.

「21世紀の学校における国際理解教育」(日本国際理解教育学会第20回研究大会・20周年記念基調講演, 聖心女子大学, 2010年7月3日)

「教師教育をデザインする－高度化と専門職化の展望」(横浜国立大学教育人間科学部・教育デザインフォーラム 2010年7月10日)

「音楽の創造性を育む教師・保育者の育成」(全国大学音楽教育学会大会記念講演 名古屋市ヤマハ・ホール 2010年9月3日)

「21世紀型のカリキュラム改革－その特質と構造」(東京大学教育学研究科学校教育高度化センター主催 東京大学福武ホール 2010年9月11日)

Issues on Transformation among Ideas of Curriculum Reform, Textbooks and Practices; A Viewpoint from Japan. Invited Keynote Speech, 2010 International Conference on Issues of Curriculum Transformation in East Asia, National Institute of Compilation and Transformation & Taipei Municipal University of Education, Taiwan, November 5, 2010.

「哲学・倫理学・宗教教育の課題と展望」(日本学術会議哲学小委員会主催シンポジウム「哲学・倫理学・宗教教育の意義と可能性」 日本学術会議 2010年11月28日)

学校開発政策コース

大 桃 敏 行 (教授)

〈著書〉

【共編著】

大桃敏行・背戸博史編著『生涯学習—多様化する自治体施策—』東洋館出版社, 2010年, 総頁数231。編集と第2章「地方分権改革と生涯学習行政の展開」(pp. 19-35)の執筆。

【分担執筆】

大桃敏行(単著)「現代日本の教育改革—1980年代以降の展開—」山崎高哉・労凱声編著『日中教育学対話Ⅱ』春風社, 2010年, pp. 249-274。

大桃敏行(単著)「学校教育法制の改革と課題」仙波克也・榊達雄編著『現代教育法制の構造と課題』コレール社, 2010年, pp. 61-72。

〈紀要・雑誌論文等〉

柴田聡史・大桃敏行・牛渡淳(共著)「米国における学校指導者養成のオルタナティブ・プログラムの分析—マサチューセッツ州を事例として—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第59集第1号, 2010年, pp. 77-91。

大桃敏行(単著)「教育改革における成果の重視と多様な文脈への配慮—アメリカの試み—」国民教育文化総合研究所『教育と文化』第60号, 2010年, pp. 19-26。

大桃敏行(単著)「地方分権改革と自治体生涯学習施策の新たな展開」『月刊社会教育』No. 665, 国土社, 2011年, pp. 62-69。

大桃敏行(単著)「米国における学校指導者養成システムの変容」大桃敏行(研究代表者)『米国における公共管理システムの転換と学校指導者養成システムの変容』(平成20~22年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書)2011年, pp. 1-11。

〈学会等発表〉

柴田聡史・牛渡淳・大桃敏行「米国における学校指導者養成改革—カリフォルニア州を事例として—」日本教育学会第69回大会, 広島大学, 2010年8月。

島田桂吾・大桃敏行「合併市における教育委員会事務の首長部局での執行」日本教育行政学会第45回大会, 筑波大学, 2010年10月。

大桃敏行「分権・規制改革と学校の公共性」大塚学校経営研究会, 筑波大学, 2010年12月。

学校教育高度化センター

植 阪 友 理 (助教)

〈学術雑誌論文〉

植阪友理(2010) 学習方略は教科間でいかに転移するか—「教訓帰納」の自発的な利用を促す事例研究から— 教育心理学研究, 2010, 58(1), 80-94。

Uesaka, Y., & Manalo, E. (2010) The effect of perception of efficiency and diagram construction skills on students' spontaneous use of diagrams when solving math word problems. *Lecture Notes in Artificial Intelligence*. Springer-Verlag, Berlin. Vol. 6170, pp. 197-211.

植阪友理・Emmanuel Manalo(2010) 図表の自発的な活用を促す指導法の開発—コミュニケーション

ツールとしての利用経験の効果—(第26回大会(2009年)大会発表賞受賞論文) 認知科学, 2010, 17 (1)

Keakei, K., Uesaka, Y., & Manalo, E. (2010) Providing effective mental health support to Japanese university students: The use of a typological approach at a university mental health support center. *The Open Rehabilitation Journal*, 2010 3, 47-54.

〈書籍〉

植阪友理 (2010) 第7章 メタ認知・学習観・学習方略 市川伸一 (編) 現代の認知心理学 北大路書房 pp. 55-74.

植阪友理 (2011) 第8章 学習上のつまずきと認知カウンセリング 伊藤亜矢子 (編) エピソードでつかむ児童心理学 ミネルヴァ書房 pp. 149-162.

〈一般雑誌論文〉

植阪友理 (2011) 「学び方」の上手な子どもを育てるために—学校や家庭でできること— 発達Vol. 125 pp. 64-71.

〈口頭発表〉

Uesaka, Y. Manalo, E., & Ichikawa, S. (2010) The effect of perception of efficiency and diagram construction skills on students' spontaneous use of diagrams when solving math word problems. International Conference of Diagrams 2010. Portland State University. August, 2010. USA.

植阪友理 (2011) 理解確認と理解深化を取り入れた大学授業—統計教育と心理教育を題材に— 第17回高等教育フォーラム 個人発表C-6, p125-126.

植阪友理・高橋麻衣子・嶺竜治・牧敦・市川伸一 (2010) 数学的文章題における図表活用方略を促す授業実践—デジタルペンを生かした公立中学校での学習法講座から— 日本教育心理学会 (第52回日本教育心理学会総会発表論文集, pp.338)

植阪友理 (2010) 「学習スキルを育てる授業を創る」自主シンポジウム「認知カウンセリングから提案する新しい授業のあり方(Ⅱ) 日本教育心理学会 (第52回日本教育心理学会総会発表論文集, pp. 144-145)

市川伸一・植阪友理 (2010) ワークショップ「三面騷議法」による授業検討会のあり方 第3回教育研究交流会, (予稿集, pp. 5)

〈ポスター発表〉

植阪友理・清河幸子・市川伸一 (2010) 構成要素型テストCOMPASSで見る日本の数学的基礎学力の

実態—「基礎基本は十分, 活用は不十分」は本当か?— 第74回日本心理学会 (予稿集, p775)

植阪友理・小齊香織 (2010) 人は音によって素材を弁別できるのか?—電子移動補助具K SONARを用いた素材カテゴリー同定実験から— 日本認知科学会 (抄録CD, P 1-33, 6pages)

植阪友理・齊藤純・市川伸一 (2010) 学校での学習相談活動が教師の視点に与える影響—小学校における認知カウンセリングとケース検討会の試みをもとにして— 第3回東京大学教育交流研究会 (予稿集, p 9)

植阪友理・清河幸子・市川伸一 (2010) 見過ごされてきた基礎・基本の危うさを問う—COMPASSによる数学的基礎学力の測定結果から— 第3回東京大学教育交流研究会 (予稿集, p10)

Manalo, E., Uesaka, Y. & Yano, Y. (2010) Mental representations of diagrams, views about diagrams, and problem solving. The 32nd Annual Meeting of the Cognitive Science Society, 2010, August 12-14, Portland, U. S. A (pp. 1852-1857).

コンピュータ相談室

紙名哲生 (特任助教)

〈査読付論文〉

Tetsuo Kamina, Tomoyuki Aotani, and Hidehiko Masuhara: EventCJ: A Context-Oriented Programming Language with Declarative Event-based Context Transition. In Proceedings of the 10th Annual Aspect-Oriented Software Development Conference (AOSD'11), 253-264, 2011.

Tetsuo Kamina, Tomoyuki Aotani, and Hidehiko Masuhara: Designing Event-based Context Transition in Context-Oriented Programming. In Proceedings of the International Workshop on Context-Oriented Programming (COP'10), article No. 2, 2010.

Tetsuo Kamina and Tetsuo Tamai: Lightweight Nested Inheritance in Layer Decomposition. In Proceedings of the 2010 International Workshop on Foundations of Object-Oriented Languages (FOOL'10), 2010.

〈口頭発表〉

Tetsuo Kamina, Tomoyuki Aotani, and Hidehiko Masuhara: EventCJ: Realizing Declarative Event-based Context Transition, AOAsia/Pacific'10, September 2010.